

保育所保育指針改定後 実践の変化

- ◆ 保育所の「幼児教育」
- ◆ 1, 2歳児保育の充実
- ◆ 保護者支援の理解と現状・課題

保育所保育指針改定後 実践の変化

◆ 保育所の「幼児教育」

【変化と成果】

幼児教育施設としての役割を深く「考える」ようになった

- ・保育所は「養護と教育を一体的に行う」という意味
- ・子どもにとっての「あそび」の意味

保育を変えることへの意識の変化

- ・子どもを人格ある主体として捉え関わる
- ・育みたい資質、能力が育つ環境構成
- ・変わることの「不安」から「わくわく」へ

保育所保育指針改定後 実践の変化

◆保育所の「幼児教育」

【課題】

- ・こどもの思いを大切にした行事のあり方など
- ・10の姿の小学校や保護者との共有
- ・個別性に応じた関わりと、集団保育の充実

保育所保育指針改定後 実践の変化

◆ 1, 2歳児保育の充実

【変化と成果】

養護的関わりの重要性を再認識

- ・「育みたい資質・能力」にとって重要な時期という意識
- ・「あそび(学び)の芽生え」の読み取り

幼児期に向けた生活の自立のための準備段階ではない

- ・一人一人のペースに合わせた成長を保障
- ・興味、関心に合わせた環境設定

保育所保育指針改定後 実践の変化

◆ 1, 2歳児保育の充実

【課題】

- ・アタッチメントの形成
- ・さまざまな家庭、保護者の状況への理解と支援
- ・個人差への対応

保育所保育指針改定後 実践の変化

◆保護者支援の理解と現状・課題

- ・家庭環境の変化についての理解
→子どもの育ちについての不安、保護者自身の負担やストレス
- ・子どもの最善の利益の保証
→「最もふさわしい生活の場」として保育所の特性を生かせる
- ・不適切な養育などのセーフティーネット
→日常の様子を通して具体的な支援ができる